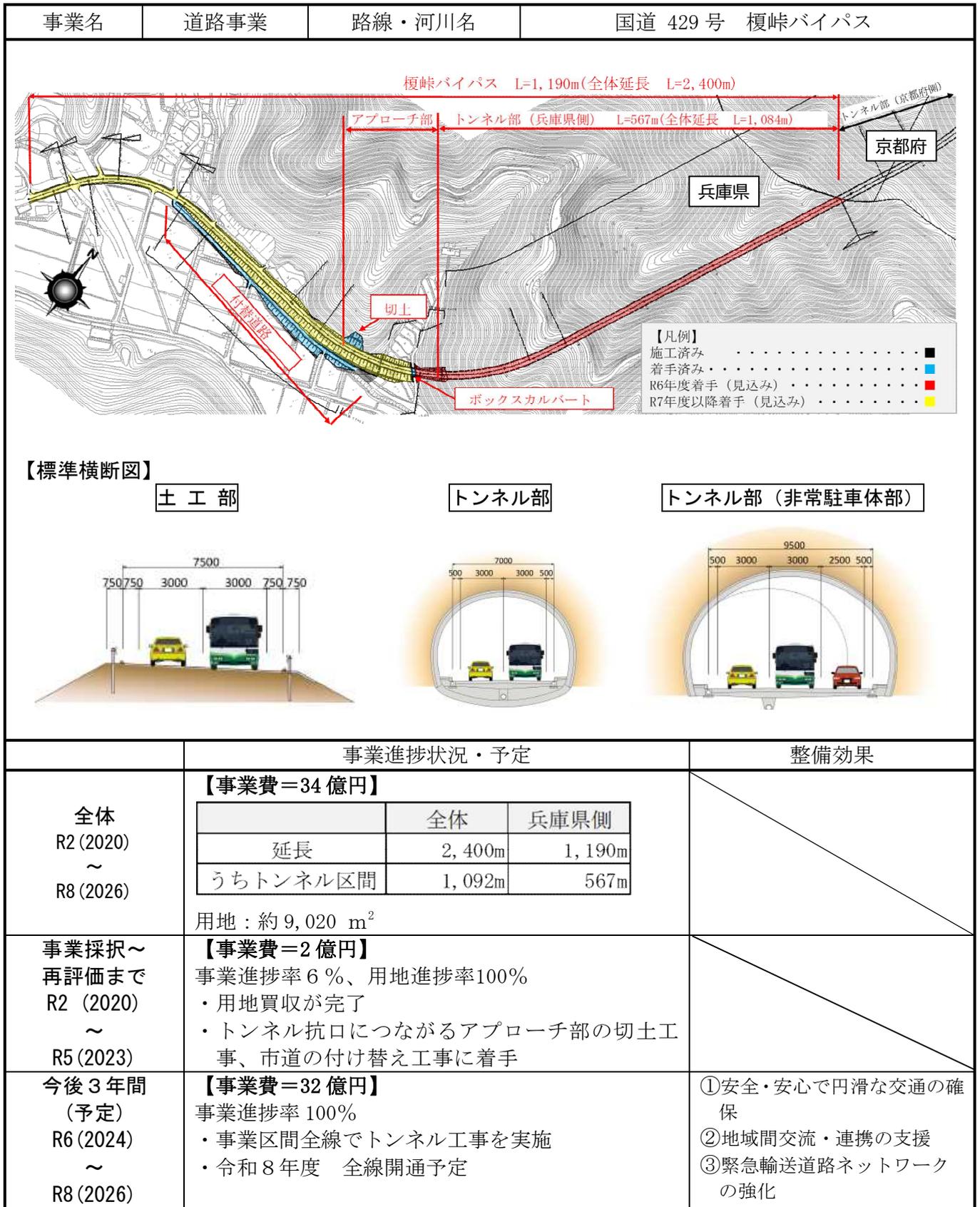


令和5年度 投資事業評価調書（継続：再評価）

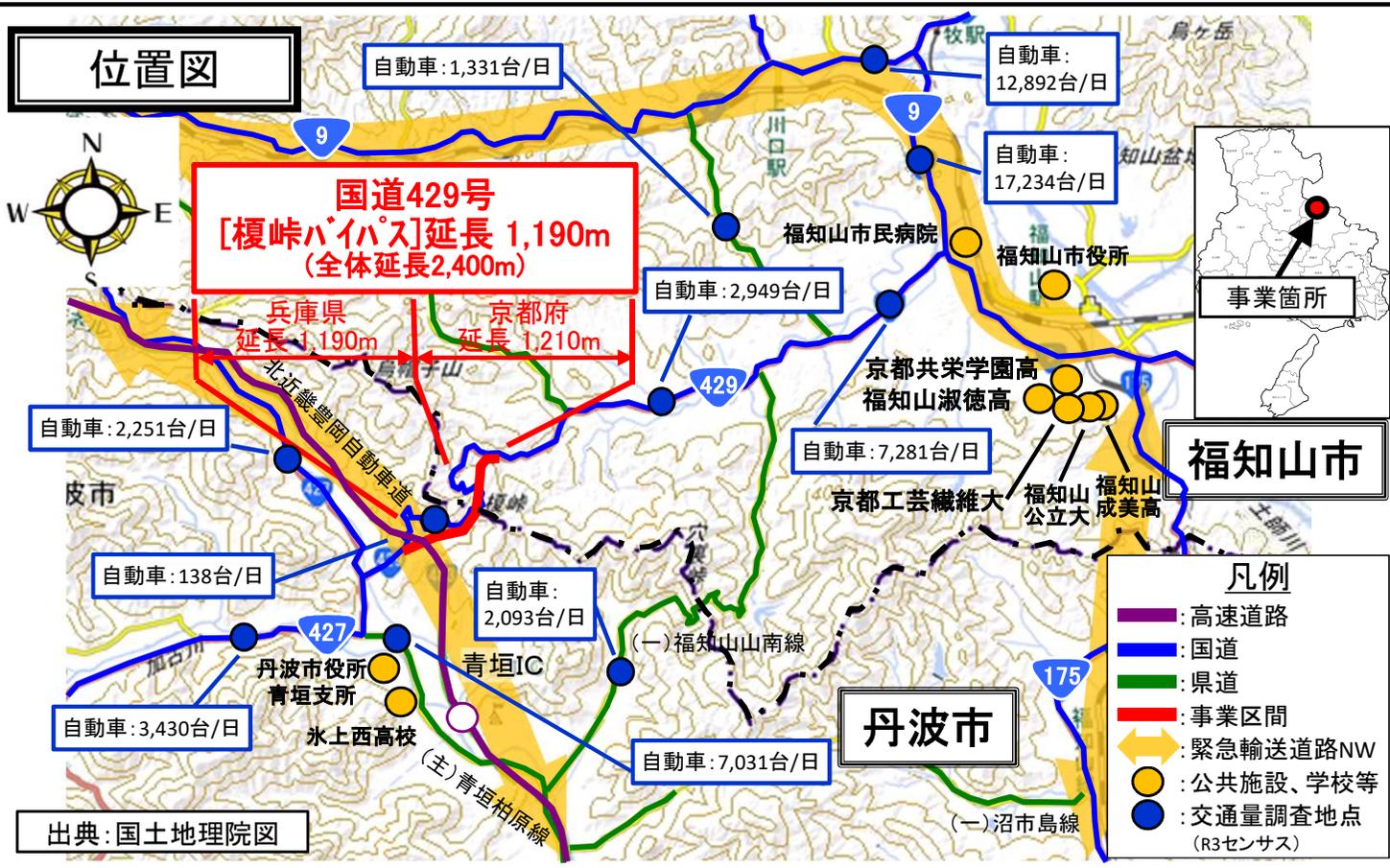
部課室名	土木部 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (国道・橋梁班長 吉田 頼彦)	内線	4362 (4378)	
事業種目	道路事業	新規評価年度	令和元(2019)年度	現計画	新規評価時点	
事業名	国道429号 [榎峠バイパス]	事業採択年度	令和2(2020)年度	総事業費	34億円 (全体70億円)	21億円 (全体43億円)
		着工年度	令和2(2020)年度	内用地補償費	0.2億円 (全体1.0億円)	0.1億円 (全体0.6億円)
事業区間	兵庫県丹波市青垣町中佐治 (～京都府福知山市談)	完成予定年度	令和8 (2026)年度	令和8 (2026)年度	令和8 (2026)年度	
		進捗率 (用補進捗率)	6% (100%)	0% (0%)	0% (0%)	
		残事業費	32億円	21億円		
事業の目的				事業内容 () 新規評価時点		
<p>本路線は、岡山県倉敷市を起点とし、京都府福知山市に至る幹線道路であり、県内陸部を東西に結び、沿線地域の生活、産業を支える重要な路線である。</p> <p>○安全・安心で円滑な交通の確保 幅員狭小(最小幅員3.0m)、急カーブが連続する峠部の未改良区間をバイパス整備することにより、安全・安心で円滑な交通を確保する。</p> <p>○地域間交流・連携の支援 丹波市青垣地域で取り組む「体験型観光」への来訪者のさらなる増加を促し、広域的な観光連携など地域間の交流・連携を支援する。</p> <p>○緊急輸送道路ネットワークの強化 緊急輸送道路である国道9号の一部は、異常気象時通行規制区間があり、代替路として、災害時の広域的な道路ネットワークを強化するとともに、丹波医療センターの府県域をまたいだ医療圏域の拡大を図る。</p>				<p>【延長】1,190m [全体延長 2,400m]</p> <p>【構造規格】第3種第3級</p> <p>【計画幅員】2車線 歩道なし 車道[明かり区間]6.0m[全幅7.5m] [トンネル区間]6.0m[全幅7.0m]</p> <p>【計画交通量】 5,000台/日[R22推計]</p> <p>【現況交通量】 自動車:138台/日[R3センサス] (207台/日[H27センサス])</p> <p>【負担割合】国50% 県50%</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>令和4年度に兵庫県、京都府の両府県域で土工部の工事に着手するなど、令和8年度の完成に向けて、両府県での整備が進んでいる。</p> <p>【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>①詳細な調査の結果、劣化帯等が存在する可能性が判明したことによるトンネル支保パターンの変更により約3.5億円増額する。</p> <p>②建設資材価格や労務単価の上昇を受け必要経費を計上するため約9億円を増額する。</p> <p>③トンネル坑内の換気基準の改定による換気設備の見直しにより約0.5億円増額する。</p>					
進捗状況	<p>【用地】令和3年度から用地取得に着手し、令和4年末時点で用地買収が完了した。</p> <p>【工事】トンネル抗口につながるアプローチ部の土工事を実施している。両府県でトンネル工事の発注に向けた手続きを進めており、引き続き、早期完成を目指し工事を進める。</p>					
評価視点	評価結果の説明					
審査会意見及び対応方針(R元年度新規評価)	【審査会意見】 「事業着手は妥当」である。	【対応方針】 早期完了に向け、事業推進に取り組む。				
(1)必要性	<p>①現道は急カーブが連続し、幅員狭小で普通車の離合さえ困難であり、特に冬期の通行に支障がある。また、異常気象時通行規制区間があることから、トンネルによるバイパスを整備することで、安全・安心で円滑な交通を確保する。</p> <p>②丹波市青垣地域で取り組む「体験型観光」への来訪者のさらなる増加を促し、府県境を越えた広域的な観光連携による地域活性化を図る。また、青垣工業団地の物流・利便性が向上し、地域の産業振興に寄与する。</p> <p>③異常気象時通行規制区間を有する国道9号(緊急輸送道路)の代替路として、災害時の広域的な緊急輸送道路ネットワークを強化する。また、福知山市内からのアクセス向上により、丹波医療センターの府県域をまたいだ医療圏域の拡大に寄与する。</p>					
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>①バイパス整備により、異常気象時通行規制区間が解消される。</p> <p>②バイパス整備後の現道の管理引継ぎについて、丹波市と協議が整っている。</p> <p>③費用便益比B/C=1.3(前回評価時B/C=1.3)</p>					
(3)環境適合性	<p>①周辺には絶滅危惧種ホトケドジョウ(環境省レッドリスト:IB、兵庫県レッドリスト:Aランク(兵庫県では丹波市にのみ生息))の生息を確認していることから、ルート検討段階において、生息環境の保全に配慮したルートを選定した。</p> <p>②周辺には絶滅危惧種サンバ(環境省レッドリスト:II、兵庫県レッドリスト:Bランク)の生息を確認したことから、代替巣の設置を行った。</p>					
(4)優先性	<p>①「地域の防災道路強靱化プラン」に位置づけており、災害に強い強靱な県土づくりを進める上でも早期整備が必要である。</p> <p>②青垣地域の「体験型観光」等、丹波市の地域活性化に向けた取組を支援するためにも早期整備が必要である。</p>					
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性・有効性等は事業採択時と変わっておらず、当該区間の早期供用を望む地元の声が強いため、継続して事業を実施する必要がある。			

事業進捗状況概要図（継続：再評価）



道路事業 国道429号〔榎峠バイパス〕

位置図



目的

- ①安全・安心で円滑な交通の確保
- ②地域間交流・連携の支援
- ③緊急輸送道路ネットワークの強化

事業概要

事業区間: 兵庫県丹波市青垣町中佐治^{なかさじ} ~ 京都府福知山市談^{だん}

総事業費: 34億円 (全体70億円)

内用地補償費: 0.2億円 (全体1.0億円)

事業期間: R2~R8

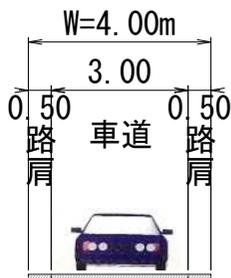
事業概要: バイパス (トンネル)

延長: 1,190m (全体 2,400m)

費用便益比B/C: 1.3 (残事業: 1.4)

横断図

〈現況〉

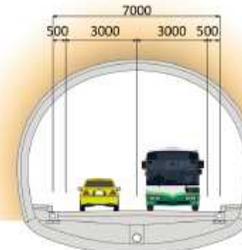


〈計画〉

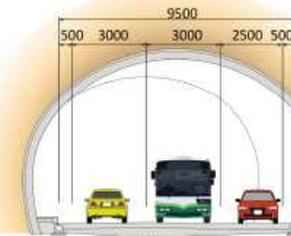
土工部



トンネル部



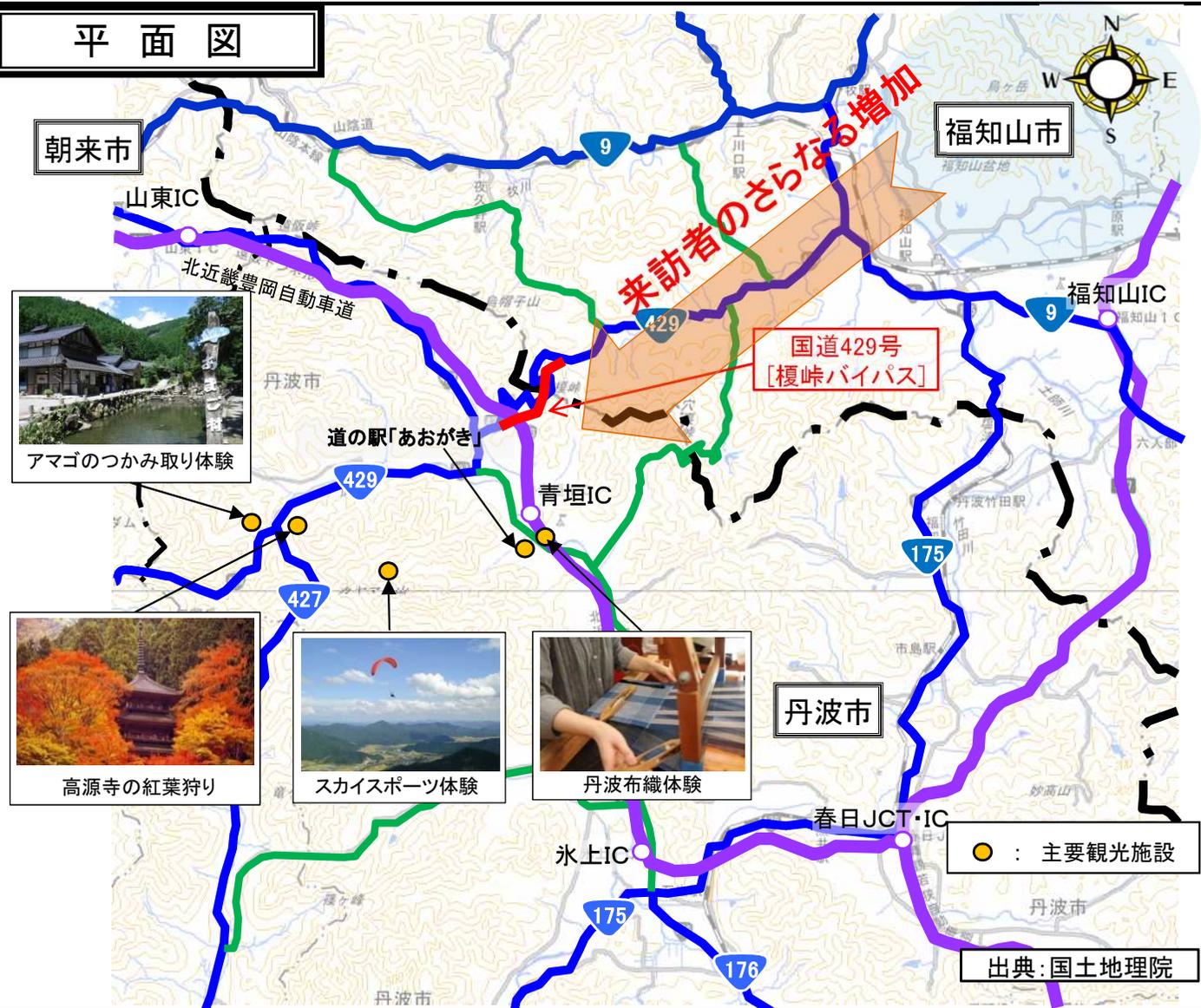
トンネル部
(非常駐車体部)



事業の必要性・優先性

- ①現道は急カーブが連続し、幅員狭小で普通車の離合さえ困難であり、特に冬期の通行に支障があることから、安全・安心で円滑な交通を確保する。
- ②丹波市青垣地域で取り組む「体験型観光」などへの来訪者のさらなる増加を促し、府県境を越えた広域的な観光連携による地域活性化を図る。

平面図



①安全・安心で円滑な交通を確保

連続したヘアピンカーブ



幅員狭小な現道(冬期)



②「広域的な観光連携による地域活性化

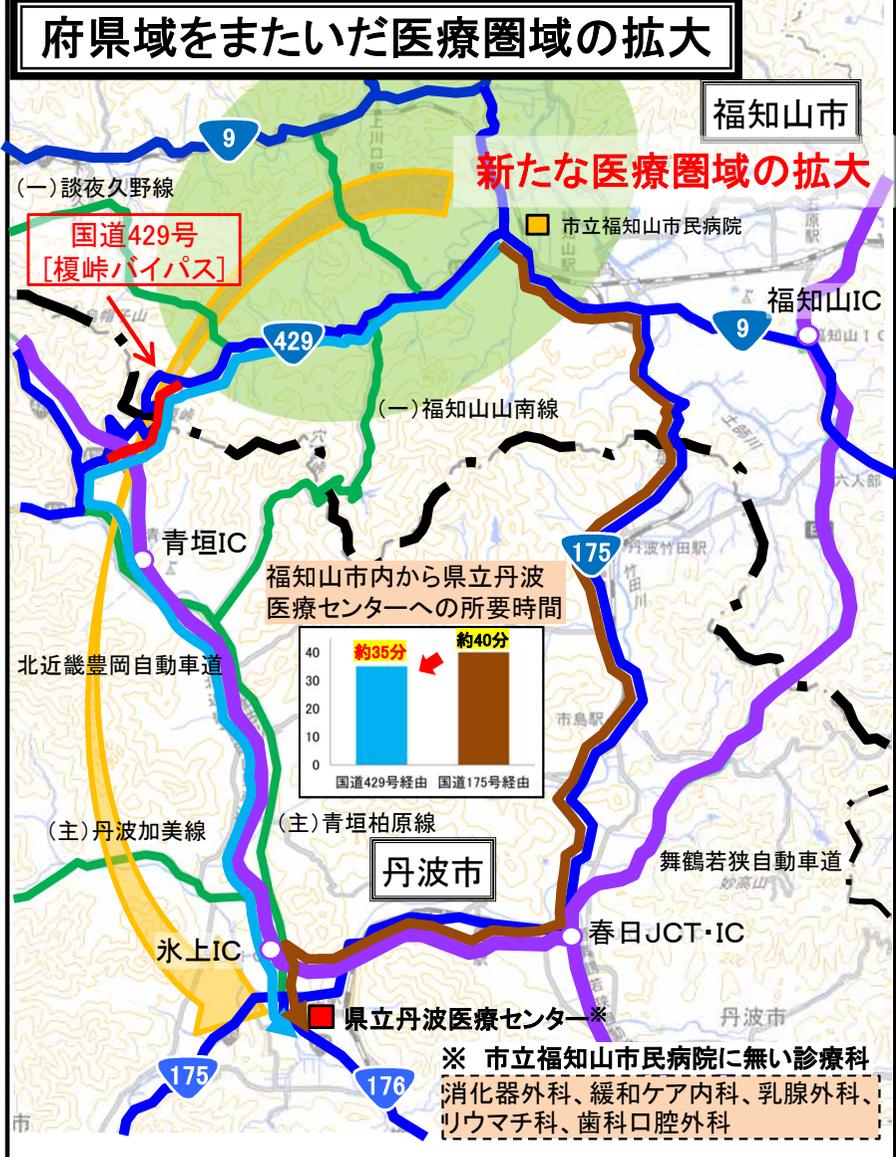


道の駅「あおがき」で開催される夏祭りには、福知山市のこども園・保育園の児童が毎年参加し、学生や地域住民と一緒に行灯を作成して祭りを賑わせている。

事業の必要性・優先性

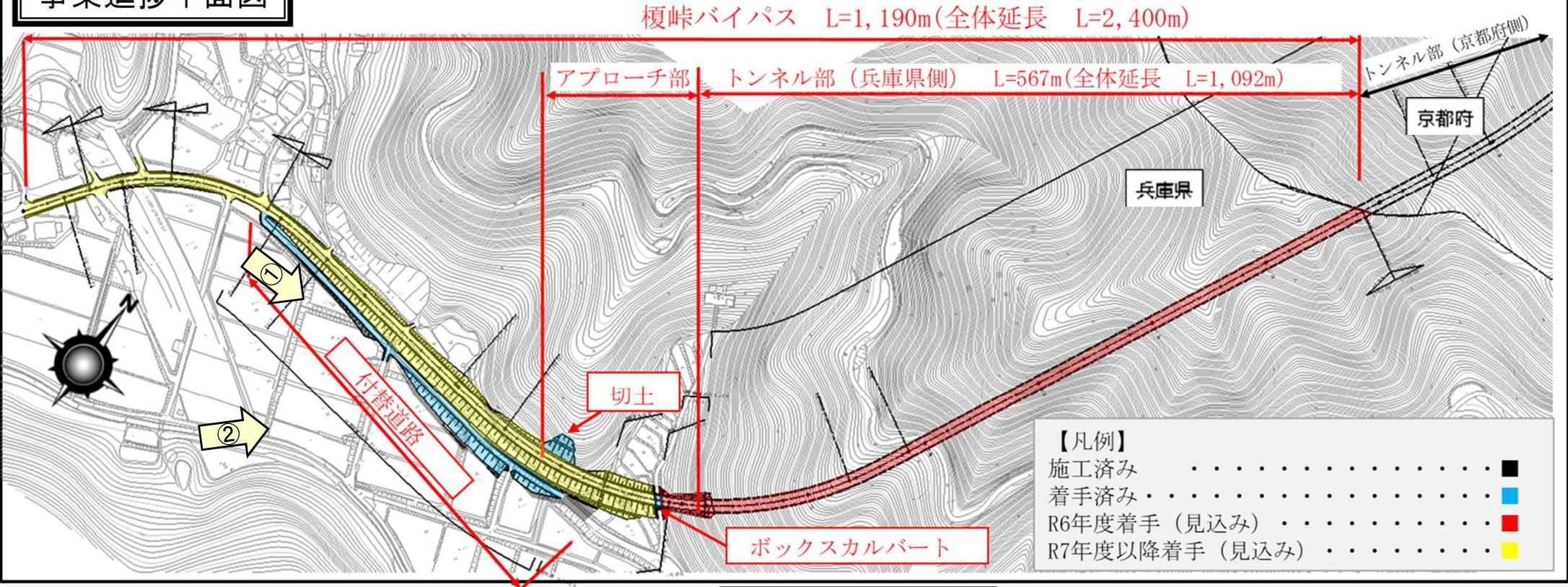
③異常気象時通行規制区間を有する国道9号(緊急輸送道路)の代替路として、災害時の広域的な緊急輸送道路ネットワークを強化する。また、福知山市内からのアクセス向上により、丹波医療センターの府県域をまたいだ医療圏域の拡大に寄与する。

③広域的な緊急輸送道路ネットワークを強化、医療圏域の拡大



進捗状況

事業進捗平面図



工程表

■ : 前回計画
 ■ : 実施・計画

工種	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
設計・調査 (関係機関協議)	■ ■						
用地補償		■ ■	■				
道路改良工事			■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■
トンネル工事					■ ■	■ ■	

現況写真

写真①



写真②



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
走行時間短縮便益	目的地までにかかる時間が短くなることによる便益
走行経費減少便益	交通の流れがスムーズになり、燃費などが向上することによる便益
交通事故減少便益	交通事故が減少することによる便益

② 費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C	
		便益額(億円)			総費用(億円)	事業費(億円)	維持管理費(億円)		
道路	道路改築事業 国道429号	全体事業費	走行時間短縮便益	50.5	計画交通量 5,000台/日	63.2	60.0	3.2	1.3
			走行経費減少便益	29.8					
			交通事故減少便益	1.4					
			計	81.7					
	[榎峠バイパス]	残事業費	走行時間短縮便益	50.5	計画交通量 5,000台/日	56.6	53.4	3.2	1.4
			走行経費減少便益	29.8					
			交通事故減少便益	1.4					
			計	81.7					

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路)	○	・国道9号の代替路として災害時の緊急車両等の円滑な走行を確保
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○	・異常気象時通行規制区間が解消
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	—	—
	平時	救急医療体制の支援	○	・丹波医療センターへのアクセス性が向上
		交通安全対策	○	・幅員狭小や連続した急カーブの解消により事故発生リスクを低減
②地域の活性化	地域間交流の促進	○	・夏祭りをはじめとした青垣・福知山の今も続く地域間交流を支援	
	中心市街地の活性化	—	—	
	地域産業の活性化	○	・青垣工業団地の物流・利便性が向上	
	観光支援	○	・丹波市青垣地域の「体験型観光」や「滞在型交流」など、府県境を越えた広域的な観光連携を支援	
	地域プロジェクト等支援	—	—	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—	—	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	—	—	

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	丹波市長、福知山市長により構成する「国道429号(福知山丹波間)改修促進同盟会」、丹波・福知山両市議会議員、地元自治会により構成する「国道429号(福知山青垣間)改修促進合同協議会」が、毎年早期整備の要望書提出や、決起大会を開催しており、地元の期待が大きい。
-------	---